

## 採択拠点の拠点形成概要・採択理由

【分野名：革新的な学術分野】

機 関 名	京都大学
拠点のプログラム名称	昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生
中核となる専攻等名	農学研究科応用生物科学専攻
事業推進担当者	(リーダー) 藤崎憲治 教授 外16名
<p>(拠点形成概要)</p> <p>21世紀の最重要課題である食料問題と環境問題を根元的に解決するためには、新たな観点と切り口が必要である。本研究教育拠点は昆虫科学をその切り口とする全く斬新なものである。昆虫は4億年という歴史を生き抜いた、圧倒的な種数を誇る、地上でもっとも繁栄している動物群である。それだけに、自然生態系における役割や人類に与える影響は計り知れない。本拠点は、地球社会の構成員として双壁にある人類と昆虫類との“共生”を基本理念とした革新的な研究と教育の実践を目的としている。その基盤となる昆虫科学とは、人類よりはるかに単純な神経系の持ち主である昆虫類がなぜかくも繁栄しているのか、その生きる智慧を解明し、それから学ぶ“エントモミメティクサイエンス”である。すなわち、昆虫類が長い進化を経て創造した、柔軟な環境適応能力、精緻な情報伝達システム、研ぎ澄まされたデザインと機能、をサブテーマとした融合的基礎研究を展開する。それにより、共生原理に基づいた新たな世界観を創出し、食料問題と環境問題の根元的解決に向けた新たな産業創造へのシーズを提供するとともに、このような未来型食料環境学に精通した人材を創出する。</p>	
<p>(採択理由)</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>地球上の動物の中で最大群をなす昆虫類は、長大な進化史の中で培われた、極めて多様な形態(体構造)や生態(機能)をもつ。それらを智の宝庫と位置づけ、そこから得られる情報をもとにエントモミメティク科学とも呼ぶべき総合昆虫科学の研究教育拠点を展開するものとして評価される。</p>	
<p>&lt;革新的な学術分野であるポイント&gt;</p> <p>環境適応能力、情報伝達能力、スマートな形態と機能など、4億年という長い進化過程で多様な形態と生態を發展させた昆虫に学ぶという視点から、共生原理に基づく世界感を創出して食料問題と環境問題の解決に向けた今後の食料環境学を創出しようとする点で、革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成計画である。</p>	